

12番三田地久志でございます。通告に基づきまして質問をいたします。

中居町政の2期8年の振り返りについて

中居岩泉町長は、この9月に今任期での勇退を表明されました。中居町長は、歴代町長の中で職員から町長に就任した初の町長であり、東日本大震災からの復興、平成28年台風第10号豪雨災害からの復旧復興、あるいはコロナ禍での住民への対策などに追われ、なかなか自分が思い描く町政運営が出来なかったのではないかと推察されます。

今議会が、中居町長に対する最後の一般質問となりますことから、中居町長の職員時代及び町長2期8年を振り返りたいと思います。

職員時代からの私が思いつくままに挙げる事が出来る中居町長発案の施策は、現在も受け継がれその効果を発揮しているところです。

例えば、龍泉洞清水川釣りまつり（現在は名称変更）、龍泉洞内ライトのLED化、龍ちゃん商品券の発行。

台風第10号豪雨災害下では、被災住民への救護施策など様々な対応をしていただきました。

町長に就任してからは、危機管理課の設置、防災士の育成、こども園の無償化、18歳までの医療費無償化、定住のための宅地造成・分譲、定住住宅などの整備、地域おこし協力隊による移住対策、ふるさと納税の拡充、済生会岩泉病院の充実、岩泉高校の存続強化、さらには道路が重要とのことから国道455号線の土側溝の埋め立てによる拡幅、国道340号の浅内工区への着工、大牛内地区への水道管敷設など、真に住民に必要とされる施策について適時適切に施策を実行してきました。

また、小川支所の老朽化に伴い改築を行い来年には完成の予定であります。

9月の第3回定例議会において、畠山和英議員も質問していましたが、中居町長にとって最後の議会となりますことから、町政、議会に対する思いをお伺いします。

12 番 三田地 久志 議員の御質問にお答えします。

はじめに、平成 30 年 1 月 28 日に町長に就任し、臨んだ初議会は、平成 30 年 3 月 2 日開催の第 1 回町議会定例会での所信表明でありました。

このときの所信表明では、町史最大の危機であった台風 10 号災害からの復旧・復興を最優先の課題として全力で取り組んでいく旨の決意と覚悟を申し述べたところがあります。

その中で、中国歴史書の漢書の「雨垂れ石を穿つ」を例に、町政運営に当たっては、たとえ小さな課題であっても、その一つひとつに丁寧に向き合い、確かな形を創り上げていくことによって、復旧・復興を成し遂げ、ふるさと岩泉を後世に繋げてまいりたいとの思いからでありました。

東日本大震災からの復旧・復興を成し遂げ、台風 10 号災害の対応や新たなまちづくりに挑戦しようとした矢先、令和元年から 5 年まで続いたコロナパンデミックの追い打ちもあり、これからというときに出鼻をくじかれた感もありました。

喫緊では、クマ被害対応にも追われるなど、振り返りますと、まさに災害との闘いの連続でありました。

しかし最近では、各地域でかつてのイベントが復活し、町民の皆様の笑顔を拝見したり声を掛けられたりします

と、以前の穏やかな雰囲気にも包まれた岩泉町を少しずつではありますが取り戻せたと感じているところでもあります。

議員から御紹介いただきました様々な事業の一つひとつにつきましても、ここでは触れませんが、9年間という年月を要しましたが、台風10号災害からの復旧・復興を着実に進めることができましたことは、議員各位の御理解と御協力の賜物と思っております。

改めて町民の皆様を始め町職員、全国から駆け付けていただいたボランティアの皆様、国、県、工事関係者など、台風10号災害に御支援・御協力を賜りました全ての皆様へ感謝とお礼を申し上げます。

私は、常々「ワンチーム」「オール岩泉」というフレーズを用いて町政に取り組んでまいりました。

1町5か村が合併し、広大な面積を有する岩泉町のまちづくりに当たっては、意見の相違もあってしかるべきですが、議論を尽くした上で、方向性が決まったらチーム一丸となってスクラムを組んで取り組むことが肝要との思いからでありました。

町長就任以来、「安全安心で災害に強いまちづくり」を念頭に、様々なハード整備に加え、地域防災力向上の観点から、防災士の育成や自主防災協議会の立ち上げなど、町民一丸となって防災、減災に取り組む環境づくりを進めてまいりました。

お陰様を持ちまして、本年 10 月末には小本川の大規模河川改修工事も終了し、11 月 1 日に復旧・復興記念式典を迎えることができました。

適当な言葉が見当たりませんが、あえて表現するならば「責任を果たした安堵感」ということではないかと思っております。

この 2 期 8 年間、台風 10 号災害からの復旧・復興を成し遂げるとの強い思いで町政に携わり、このことが実現できた今、まさに、災害で荒れ果てた広大な岩泉の大地を耕し、新たな種をまく環境を整えることができたと思っております。

今後におきましても、災害の記憶を風化させることなく、防災・減災の取組の重要性を次の世代につなげていくことが、「ふるさと岩泉」を再生する確かな一歩になり、ひいては岩泉町未来づくりプランに掲げる「一人ひとりの未来の花が咲き誇る町」の創造へとつながるものと考えております。

結びに、私の任期は来年 1 月 27 日までであります。残すところひと月と 22 日。初心を忘れることなく、最後の最後まで町政の推進に取り組んで参りますので、議員各位におかれましては、引き続きの御支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。答弁とさせていただきます。